

No.197

令和3年2月8日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



♪もうすぐ春ですわね♪



♪もうすぐ春ですわね。ちょっと気取ってみませんか♪

このフレーズを口ずさむことのできる人が何人ほどいるでしょうか。年を重ねてきたせいか、こんなことが気にかかるようになってきました。

それはともかく、立春が過ぎ暖かさを感じる日が増えてきました。先週土曜日はまさにそんな一日でした。春を思わせる陽気に誘われたかのように、年明けから咲き始めた我が家のロウバイが満開を迎えました。



ロウバイ(蟬梅)は、半透明でにぶいつやのある花びらがまるで蟬細工のようであり、臘月(ろうげつ/旧暦12月)に花を咲かせることにちなむと言われています。

庭木として植えられていて、彩りの少ないこの時期に鮮やかな黄色の花を咲かせるので、通勤途中等に目にすることもあると思います。

暖かかったことも手伝って、久しぶりに庭仕事に精を出しました。頭の中を空っぽにすることができるので、庭仕事は嫌いな方ではありません。自分にとってはリフレッシュできる時間となっています。強風で飛ばされ吹き溜まりになっていた落ち葉を片づけたり、冬の寒さにもめげずに伸び始めた雑草を取ったりしているうちに、こんな俳句が浮かんできました。

梅一輪 一輪ほどの 暖かさ

どなたも一度は聞いたことのある俳句だと思います。松尾芭蕉の弟子である服部嵐雪が詠んだ句です。

この句の解釈には次の二通りがあるそうです。

- ・梅が一輪咲いている。それを見ると一輪ほどのかすかな暖かさが感じられる。
- ・梅の花が一輪咲くごとに、少しずつ暖かくなっている。

前者は「寒さの中、ほのかな暖かさにじんわりと心が震える様子」、後者は「聞こえ始めた春の足音に心躍らせる様子」となります。



俳句を連想しながら庭仕事を続けていると、なんと本当に梅の花が一輪咲いているではありませんか。こんなことってあるんですね。

冒頭の♪もうすぐ春ですわね♪は、私たちの世代にとってのスーパーアイドルグループ「キャンディーズ」の「春一番」という歌の一節です。おそらく50代半ば以上のかたなら、誰もが口ずさめるはず。この季節になると、なんとなく口をついて出てきてしまいますよね。

「春一番」にはこんなフレーズもあります。

泣いてばかりいたって 幸せは来ないから
重いコート脱いで 出かけませんか
もうすぐ春ですわね 恋をしてみませんか

恋をするかしないかはともかくとして、コロナ禍の現状を憂いてばかりはいられません。「泣いてばかりいたって 幸せは来ない」には共感を覚えます。春間近。勇気づけられもした庭仕事になりました。